

大橋乙羽 おとぼし 小説家。明治二年六月四日羽前鯛米澤生れ、二十四

年六月一日歿（六六―一九〇一）。舊姓渡邊、本名丈太郎。筆名おとぼ生、

乙羽庵、乙羽庵主人、乙羽生、乙羽葺主人、乙橋生、乙橋、乙橋散史、

乙橋散士、乙橋生、乙大狗庵、渡邊丈太郎、渡部乙羽、眠花、竹泉、蚯

町庵、高橋丈太郎等。東陽堂に入り雑誌『風俗畫報』等の編輯に従事。

明治二十二年視友社同人。二十七年博文館主大橋佐平の長女と結婚、

支配人として多くの新雑誌を發刊するなど、同館隆盛に盡力。小説の

他記行文を能くし、寫真趣味も有名。

著書『霹靂一聲』乙橋散士・高橋丈太郎名、明治二十二年六月四日

前田ひさじ刊、松成伊二郎發兌）、『おとぼ川』（乙羽庵主人名、明

治二十五年一月）『春陽堂』『文學世界』（『銀行の秘密』（乙橋

生名、刀川子合譯、明治二十六年五月）『春陽堂』『探偵小説』（

『杉鷹山』（渡部乙羽名、明治二十六年十一月十五日博文館）『少

年文學』（『學園花壇』（乙羽庵主人名、合著、明治二十七年一月

）『春陽堂』（『青兒と衛生』（木名、編、明治二十九年二月）『博

文館』『日用百科全書』（樋口夏子著）『葉全集』（同、編、明治二

十年一月七日博文館）、『千山萬水』（乙羽生名、明治二十二年一月

）二十一日自刊、博文館發兌）、『名流談海』（同、明治二十二年二月

）二十五日博文館）、政治小説『梁卯の東洋』（四版、明治二十二年四月五

日自刊、東京堂博文館發兌）、『花鳥集』（乙羽生名、明治二十二年五月五

日博文館）、『風月集』（同、明治二十二年九月八日博文館）、『初

子集』（同、明治二十二年十二月十九日博文館）、伊藤博文音話『藤

侯實歴』（大橋乙羽生名、筆記、明治二十二年十二月十九日博文館）、

可續「山瀉水」(乙羽生名、明治二十二年一月、二十五日博文館)、可敵
「山米水」(同、明治二十二年十一月、二十一日刊、博文館發賣)、可敵
「米小觀」(同、明治二十四年七月十四日博文館。附・岸上棟「大橋乙
羽若」,「柳風鵲雨集」)等。